

令和6年度 高等教育研究コンソーシアム信州 学生活動支援事業活動報告書

団体等名	信州大学レオクラブ	
代表学生	所属大学名・学部・学年	信州大学医学部 4 年生
	ふりがな氏名	岩田勝彦
教職員責任者	所属大学名・職名・ふりがな氏名	信州大学 キャリア教育サポートセンター講師 勝亦達夫先生

活動名	するしないと ～VR 体験ワークショップ～	
実施時期	12 月 16 日	
実施場所	信州大学松本キャンパス	
活動内容	<p>「するしないと」活動内容 本企画では、信州大学登録サークル「信州大学レオクラブ」が中心となり、松本圏域のライオンズクラブに所属する社会人やその関係者の協力を得ながら実施しています。企業と学生の交流活動を通じて、学生の視野を拡げ、実践を応援する／応援される環境づくりを目指してイベントを毎月開催しています。</p> <p>また、「するしないと」は、信州大学の学生と地域社会の方々との相互交流を目的としキャリアセンターが実施してきた「しごと一く」より展開した学生提案プロジェクトです。実施に当たっては顧問でもある勝亦先生のご協力もいただきながら運営します</p> <p>12 月 16 日～VR 体験ワークショップについて～</p> <p>1. 概要</p> <ul style="list-style-type: none"> ● イベント名： するしないと～ビジネスパーソン視点で VR を考える～ ● 開催日時： 2024 年 12 月 16 日 18 時～19 時 30 分 ● 開催場所： 信州大学全学教育機構棟 ● 主催： 信州大学レオクラブ ● 参加者： 学生 5 名、社会人リーダー6 名（合計 11 名） ● 目的： 最新の VR 技術を体験し、その可能性について参加者が自由に意見交換する場を提供することで、VR 活用の新しい視点を探ることです。また、社会人と学生の双方にとってなじみのない新しい技術をテーマにすることで、社会人と学生の視点を揃えて交流し、両社の違いをより体感しやすい空間づくりを目指しました。 <p>2. イベント内容</p> <p>(1) オープニングセッション 参加者が自己紹介を行い、「好きなこと」「得意分野」を模造紙にメモし、共有しました。後半のトークセッションでは、このメモの内容に基づいて、他の参加者の「好きなこと」「専門分野」をテーマに「VR×〇〇」でアイデアを考え、本人に対してアイデア提案を行いました。</p> <p>(2) VR 体験セッション 購入した VR 機器を活用し、次のような体験を実施しました</p>	



- オープンワールド：自由に探索できる仮想空間での体験。
- ゲーム：インタラクティブな要素を含むエンタメ体験。
- VR 上での作業・立体的デザイン：設計やデザイン作業を行うアプリの体験。
- 災害体験：地震や火災などを VR で再現した防災学習ツール。
- バーチャル観光ツアー：名所や観光地を仮想空間で訪れる体験。

(写真：VR 体験の様子)



(3) VR に関する講演

事業化を得意としているコンサルタントの方から VR をテーマにご講演いただきました。

内容として例えば

- 実際のビジネスシーンや教育現場での活用事例。
- 最新の VR 技術の現状と今後の展望。
- AI との融合がもたらす可能性。

などを解説していただきました。

(4) トークセッション

他の参加者の「好きなこと」「専門分野」をテーマに「VR×〇〇」でアイデアを考え、本人に対してアイデア提案を行いました。その後は、各グループで代表を選び全体で共有を行いました。

代表アイデア例

- バーチャル観光ガイドを活用した地域活性化の提案。
- 災害体験を拡張し、学校や地域コミュニティでの防災教育に活用する仕組み。

(写真：トークセッション中の様子)



活動の成果と今後の課題	<p>3. 参加者の声</p> <p>(1) VR への期待</p> <ul style="list-style-type: none"> 「VR で人生をシミュレーションできたら面白い。例えば恋愛シミュレーションなど。」 「物体スキャン機能は本格的なビジネス利用にはまだ心もとないが、十分に活用可能。」 「AI と組み合わせることで、見ているものを記録したり、説明する機能ができたら便利。」 <p>(2) VR イベントへの感想</p> <ul style="list-style-type: none"> 「VR 機器は高額で自分では購入しにくいので、このようなイベントで体験できて良かった。」 「技術は面白いが、個人で購入するにはまだ早いかという印象。」 「アプリ開発を行う際には VR 機器を借りられる仕組みが欲しい。」 <p>(3) 企画「するしないと」への感想</p> <ul style="list-style-type: none"> 「大学生のうちにやるべきこと」を社会人から具体的に教えてもらえた点が有意義だった。 異なる業界や職種についての理解が深まり、自分のキャリアの方向性を考えるきっかけになった。 社会人や他の学生と直接交流し、他者の人生経験や価値観に触れることができた。 普段接することのない社会人と話す機会があり、自己分析や強み・弱みの再認識に繋がった。 「ネットワーキングの時間」や「実践的なセッション」が特に魅力的で、増やしてほしい。 時間がたりない。社会人ともっと深く会話してみたいと思った。 <p>4. 今後の展望</p> <p>(1) 「するしないと」の展望について</p> <p>「するしないと」は、学生と地域社会が交流し、新たな価値を生み出す場として活動を展開しています。この活動の目標は、学生が社会人との対話や共同作業を通じて成長し、実践的な経験を積むこと、そして松本市で活躍する優秀な人材を増やすことにあります。</p> <p>学生が主体となってイベントの企画や運営を担う体制を強化し、リーダーシップや課題解決能力を育む環境を整えています。これにより、地域社会で必要とされる次世代のリーダーを育成することを目指します。</p> <p>また、活動の持続可能性にも注力し、地域企業や団体との連携を深めながら、安定した運営基盤を構築します。松本市の魅力や学生に伝え、将来的な地域定着を促進するため、地元の課題解決に直結するプロジェクトにも力を入れています。学生と松本市をつなぐ「するしないと」の取り組みは、これからも進化を続けます。</p> <p>(2) 補助金で購入した VR 機とバナーについて</p> <ul style="list-style-type: none"> VR 機器は、12 月 27 日や 2 月に実施予定の学内イベント・開発プロジェクトでの活用。開発などを行う学生に対して貸し出しを行います。当面の管理に関しては、信州大学レオクラブ（連絡先：代表岩田勝彦 21m0016f@shinshu-u.ac.jp）または LID（勝亦先生）が行う予定です。 バナーは、申請団体である信州大学レオクラブ主催の「するしないと」（毎月開催）にて引き続き活用させていただきます。 <p>5. お礼</p> <p>この度は、新たな学生イベントの活動にご支援を賜り、心より感謝申し上げます。本イベントでは、学生や社会人が VR 技術の可能性を直接体験するとともに、その活用方法について意見を交換し、理解を深める場を提供することができました。</p> <p>ご支援により購入した VR 機器は、今後、地域社会や教育機関での活用を計画しており、参加者や地域の皆様へ新たな価値をお届けできるよう努めてまいります。</p> <p>引き続きご指導、ご支援のほど、何卒よろしくお願い申し上げます。</p>
-------------	---

※記述が枠内に収まらない場合は、枠を拡大してください。

※活動内容が分かる資料や写真等があれば、添付してください。添付書類を含む活動報告書一式は、A4判4枚以内にまとめてください。活動内容だけでなく、活動団体のPRを行うことができる動画を添付することも可能です。

※提出された活動報告書一式は、各関係機関等に公表するとともに、高等教育コンソーシアム信州のHPへの掲載を予定しています。他人が写った写真等を許可なく使用しないなど、著作権や肖像権に配慮してください。

※申請内容から変更があった場合は、経緯を記入してください。

※本様式のほか、活動内容や成果についての報告動画を併せて作成して提出してください。